

令和5年7月30日

長崎市医師会看護専門学校

学校長 宮村 庸剛 様

学校関係者評価委員会

委員長 中村 久美子

学校関係者評価委員会報告書

令和5年度（令和4年度実施分）学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

日野出 悦子（長崎県看護協会 会長）

楠本 美和（長崎みなとメディカルセンター 副院長兼看護部長）

坂田 幸利（長崎市医師会看護専門学校同窓会 会長（日浦病院 看護部長））

中村久美子（元活水女子大学健康生活学部子ども学科 特別専任准教授）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和5年6月28日（会場：長崎市医師会館3階 自己学習室）

3. 学校関係者評価委員会報告

（1）令和4年度自己点検自己評価結果について説明

- ・ 学校評価委員長より、今回は、昨年より評価が下がった項目【IV：教授・就業・評価課程】に着目したことなど資料に基づいて説明された。
- ・ 自己評価結果については、9カテゴリーの自己点検自己評価項目について、学校全体及び各科の平均値（令和3年度と令和4年度）をレーダーチャートで示された。
- ・ 各科の自己点検自己評価結果と取り組みについては、結果の要因分析を行い、それを踏まえた改善策や取り組みについての計画が報告された。
- ・ コロナウイルス感染症下においては、規制も年々変化し、その変化に対応した実習や調整が求められたとの説明があった。

（2）令和5年度学校重点目標及び項目について

- ・ 重点目標については、学校運営会議において協議、決定のうえ、市医師会理事会の

承認を受けている。

- ・ 主に、前年度の内容から変更したものについて、変更理由、現状、目標設定の考え方や設定目標の根拠、目標達成に向けての具体的な取り組みについて説明がなされた。
- ・ ディプロマ・ポリシー（卒業目標）にかなう教育に関して、学校が目指す姿となる看護実践者の育成、教育の工夫や教育方法の展開、全般的にDX（デジタルトランス・フォーメーション）が推進されている状況におけるICTを活用した学習支援体制の整備など取り組みについて説明がなされた。
- ・ 教員としての実践能力や質の向上に関して、成長し続ける教員であるために、コロナ対応・規制が落ち着いてきている中での研修参加機会の増加、臨床現場と異なる職場環境に入る新任教員への丁寧な関与などの取り組みについて説明された。
- ・ 円滑な学校運営の推進に関して、入学金・授業料の改定、合同進路ガイダンス参加の増加、学校・医療施設訪問の実施、第2看護学科入学者減による准看護からの進学促進などの取り組みについて説明がされた。
- ・ 地域医療機関への就業促進に関して、学生の職業的アイデンティティやキャリア志向の醸成にむけて、作成するプログラムによる低年次からのキャリア支援、ネットワーク構築のための外部環境の把握や理解などの取り組みについて説明がされた。

4. 評価委員との意見交換

「令和4年度自己点検自己評価結果」や「令和5年度学校重点目標及び項目」における質疑応答において次のようなものがあった。

(1) 看護教育に対する病院との連携について

- ・ 看護教育に対する病院の関わり方として、学校での購入が難しい高額なシミュレーターについて、病院が所有している機器の活用も考えられ、可能となれば、具体的な体制・要領についてなど協議を進めていきたい。
- ・ 臨地実習において中規模病院における実習指導者の確保が課題と聞いている。今回、指導者及び教員間の協働体制について研究に取り組むということで、病院とも話し合い、協力しながら取り組んでいきたい。

(2) 卒業生像と到達目標について

- ・ 評価について、目指す看護職の姿については、その具現化や伝えるためのコミュニケーションを考えて取り組んでいるということである。到達目標達成に関しての評価は難しいと思うが、学生とのやりとりをしながら定期的な評価をして改善してきているので、引き続き取り組みをお願いする。

(3) 知識の定着について

- ・ 学力に関しては、成績や資格試験合格で判定できるが、コミュニケーション力など評価が難しいものもあると思う。取り組み中の研究を通して卒業生が困っているところが明確になると教育プログラムに活かせると思われる。

(4) 県内の看護職について

- ・ 県内の看護学校やその卒業生数、卒業生の県内就業状況などを考えると、長崎県など行政の取り組みもよろしくお願ひしたい。

以上、報告、質疑、協議の結果、

自己点検自己評価内容を踏まえて今年度の目標設定、改善策を設定され、取り組みが実施されていることを委員全員が認識し、了承した。